



Title	北海道大学附属図書館報「榆蔭」
Citation	, 115, 1-23
Issue Date	2003-03-31
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/66365">http://hdl.handle.net/2115/66365</a>
Type	periodical
File Information	yuin115.pdf



[Instructions for use](#)



# ゆい 蔭

Yuin 北海道大学附属図書館報

## 目次

電子ジャーナル化のもとでの学部学生の新しい学習環境 附属図書館副館長・北分館長 吉野 悦雄……………1	・北分館でエル・ネット「オープンカレッジ」 を視聴できるようになりました ……15
お知らせ	北海道大学図書館講演会が開催されました ……16
・北海道大学における学術文献データベースの 導入状況について……………5	・FRBR（書誌レコードの機能要件）と 目録への概念モデリングアプローチ ……16
・附属図書館の利用公開……………8	・学術ポータル整備について……………17
・「北海道大学学位論文目録データベース」で 新制・旧制の検索ができます……………9	研修報告：カリフォルニア大学パークレイ校・ ワシントン大学図書館を訪問して ……18
・平成15年度本館及び北分館の開館予定 ……10	教官著作寄贈図書……………22
・OPAC&情報Webサービスがリニューアル……………11	会議……………23
	人事往来……………23

## 電子ジャーナル化のもとでの 学部学生の新しい学習環境

附属図書館副館長・北分館長 吉野 悦雄

1997年の夏、和歌山県で「毒入りカレー事件」といういまわしい事件が発生しましたが、当時中学三年生だった三好万季さんは夏休みの理科の宿題でこの事件をとりあげ、もっぱらインターネットで医学情報を集めて、詳細な分析を行い、世間を驚かせました。このレポートは後に文芸春秋社から『四人はなぜ死んだのか』と題して出版されています。

2001年に同じようなことが北海道大学の医学部でも起こりました。医学部六年生のある学生は、「MEDLINE」などの学術文献データベースと電子ジャーナルを縦横に駆使して情報を集め、教授の指導のもとに実験を行った結果を神経科学の分野では世界のトップ・ジャーナルと

いわれる雑誌に投稿し、レフェリーの審査をパスしました。たいへん喜ばしいことであります。

一般に、大学の教員は学生のインターネット利用に関して否定的な感情を抱いているようです。曰く「ネットサーフィン（波乗りのように数秒ごとに異なるホームページを覗く行為）しかやらない」、「便所の落書きのような情報しか見ない」、「書き込み掲示板のチャットで時間を無駄にしている」、「他人が書いた情報をマウスで丸ごと写し取ってレポートに引用して提出する」等々。

しかし、上に紹介した例が示すように、学術文献データベースと電子ジャーナルが備わったインターネット環境は、新しい地平を切り開く可

能性を学部学生に与えています。

以下では、教員としての私自身の経験や同僚の教員の経験を紹介しつつ、大学図書館のインターネット環境と学部学生の学習方法との関連について考えてみたいと思います。

現在では、ほとんどの大学で初年次学生に対して情報処理科目が必修か準必修となっています。しかし情報処理科目において、附属図書館の利用方法や情報検索手法が授業内容に盛り込まれている大学は少ないようです。北海道大学のばあい、「一般教育演習」という授業科目の中で半期に1回の90分だけですが「情報探索入門」という授業時間を作っており、約半数の新生が受講しております。

この「情報探索入門」の限界は、指導時間が短く、また図書館職員がインストラクターをつとめる関係上、内容がどうしても各種データ・ソースへのアクセス方法の説明に片寄りがちになるという点です。山のようにあるインターネット情報の中から、真に価値ある情報を選び出す実質面での指導は、教員と図書館職員が協力しつつ実施していかなくてはなりません。

例えば、厚生労働省のホームページからは、日本人の詳細な死因統計が得られること、国土交通省のホームページからは全国のすべての公示地価が得られること、各種審議会の議事録が公表されていることなどは、医学や法学、社会学、経済学の教員が自身の講義の中で新生に知らしめていく必要があるでしょう。それと同時に、いかに多くの個人ホームページに誤りや意図的な虚偽情報が含まれているかも学生に教えなければなりません。これらのソフト面でのインターネット利用教育は教員と図書館職員とが協力して実施されることが望まれます。

大学一年生の授業科目は、どうしても物理・数学・英語など基礎学力の涵養に重点を置いたものになりがちです。しかし学生はもっと専門的な知識に飢えているのも事実です。このようなミスマッチを埋める効果的な授業方法にレポート報告を中心とするセミナー形式の学生参加型授

業があります。このセミナー形式の授業の中で学術文献データベースの役割とその利用方法を学習させることは非常に効果的でした。

しかし、いきなり英語論文データベースである「Web of Science」の利用というわけにはいきません。大学一年生は英語文献を読む学力は持っていますが、受験英語で疲弊困憊しており、英語文献には強い拒絶反応を示します。そこで国立国会図書館の「雑誌記事索引」を利用して日本語の雑誌文献を探させます。しかしここでも教員による適切な指導は不可欠です。国会図書館が所蔵している雑誌に掲載されている論文といっても、ホームページと同様に玉石混淆だからです。初年次学生は、生まれて初めて、学習すべき素材を人から与えられるのではなく、自分で選択するという行為を経験します。そして雑誌論文といっても玉石混淆であるという事実を知るわけです。

三年生の後半くらいになりますと、英語論文を検索して利用するということが可能になります。指導する教員の側の工夫次第では、半分以上の学生が英語論文を利用するようになります。しかし、学生は英語論文に対して、常に恐怖心を抱いていますから、英語論文を読むための強いインセンティブ（動機づけ）を与えなければなりません。まず学生が行っている卒業研究やレポート課題に関して、当該分野では適切な日本語論文はごく少数であって英語論文を読まなければならないこと、英語論文といっても非常に単純な構文が多く、語彙も限られているので学生の英語力で十分読解可能なこと、一般に英語論文は短いので時間がかからないこと（あるいは短い論文を選ぶこと）、難しい概念や理解できない公式に出会ったら無理をせず読み飛ばすこと、あるいは理解できる部分だけ理解すればよいということ、読めない論文は読まなくてもよいこと、などの点を学生に指導します。

その際に、学術文献データベースの利用のテクニックをもう一段深く教える必要があります。理系であれば、「Web of Science」, 「Current

Contents]、[Medline]、[SciFinder]などの学術文献データベースで十分でしょうが、文系のばあいですと、それ以外に「ProQuest」や「EBSCO」などの電子ジャーナル提供機関の検索画面に入って、その提供機関がカバーする雑誌の中での論文検索も行った方がよいというような指導も行う必要があります。「LexisNexis」では法律情報や医薬品情報が含まれていること、東南アジアや中近東の現地語のラジオ・ニュースをBBCがモニターしたものを英語に翻訳して活字に起こしたものが収録されていることなど、学生の学習課題に対応したきめ細かい指導が必要となります。

このような指導をすべての教員に要求することは酷というもので、図書館職員の協力がぜひとも必要です。そして本来ならば図書館情報学担当の教員が各大学に配置されるべきです。多くの大学で情報処理教育のために相当数の教員が採用されているのに、図書館情報学ないし情報探索学の教員が非常勤であれ採用されている大学は、司書資格コースがある大学を除けば、ごく少数です。北海道大学では一名もおりません。この任務を図書館職員に押し付けるわけにはいきません。図書館職員は本務である日常業務だけでも手一杯なのですから。

次に、学生がどのような論文選択行動を採るかについて筆者の経験を紹介したいと思います。その選択行動原理は極めて単純なもので、学術文献データベースからフル・テキストで電子ジャーナルにリンクが貼られている論文、つまり論文の全文がパソコンの画面で読める論文だけをプリンターから出力するというものです。附属図書館や学内の学部図書室に印刷体で所蔵されている論文をコピー機で複写して読むということはまずありません。ましてや他大学所蔵の雑誌論文をILLサービス（大学図書館間の相互利用サービス）で申し込むなどということは絶対にありえません。電子ジャーナルをできるだけ充実させ、検索データベースと連携させるということが学部学生のためには是非とも望まれます。研究者や博

士課程院生のばあいであれば、研究遂行それ自体に高いインセンティブがありますから、他学部の図書室まで足を運び、他大学に複写依頼を行うことは当然ですが、学生にそこまで期待することはできないからです。

具体例を紹介しましょう。I君は私のゼミナールで卒業論文を書いた経済学部の学生でした。彼はハンガリーにおける自殺率の高さと経済・社会状況との関係を研究テーマに選びました。この分野では日本語の論文はひとつもありません。当然、I君は英語論文で情報を収集しなければならないことになり、しかも即座に膨大な量の文献があることを知りました。ハンガリー人の学者自身が主に英語で論文を発表しているからです。I君は経済学、社会学、人口学、公衆衛生学、法医学、人文地理学などの国際雑誌から英語論文を選択しました。

M君はまだ学部三年生ですが、ヴェトナム山岳地帯の農村経済構造を研究テーマに選択しました。彼に対しては、英語の学術文献のほかに「LexisNexis」を用いて「New York Times」の記事やBBCの現地語ラジオ・ニュースのモニター記事を検索するように指導しています。つい数年前までは、英字新聞の閲覧とは、最初から読むべき年月日が分かっているばあいしか考えられなかったのですから、大変なちがいです。

重要なことは、学術文献データベースを用いて情報ソースを探していくと、研究が必然的に学際的・複合領域的になるということです。上に紹介したI君の例のように、たった一つの単語「suicide」から、学問分野は限りなく拡がっていきます。

このことは、もしかしたら大学図書館が電子ジャーナルを整備することの最大のメリットではないかと考えています。もしも、従来から印刷体で閲覧していた雑誌のみを電子ジャーナルで閲覧するようになったただだとすれば、それは単に速くて便利になったというだけ、あるいは複写機料金よりパソコンのプリントアウトの方が安くあがるというだけの変化でしょう。



キーワード検索によって、必然的に今まで関心を向けなかった領域の雑誌の論文まで、少なくとも論文タイトルだけは読むようになる、ということは素晴らしいことだと考えます。学際的研究の必要性が叫ばれて久しいわけですが、従来は科学研究費の構成メンバーの選定や学内の研究組織改革というような人と人との連携でこの課題に取り組んできたように思われます。むしろそれは必須の取り組みです。しかし学術文献データベースと電子ジャーナルの導入によって、「たった一人の学際的研究」も可能となったのです。

このことの意義は、大学院生や若手研究者にとって測り知れなく大きいと思います。北海道大学では、電子ジャーナルの導入以前は約8千種類の洋雑誌を購読していたのですが、現在ではそれより60%ほど多い1万3千種類の雑誌が電子ジャーナル化によって閲覧可能となりました。そして学部の新入生をはじめとしてすべての学生・院生がこれらの雑誌に自由にアクセスできるようになったのです。

これらをサポートするハード面での整備も行わなければなりません。附属図書館では低学年次学生が主に利用する北分館に77台のパソコン端末を、高学年次学生が主に利用する本館に38台の端末を設置して、これにえています。講座研究室の設備を利用しづらい低学年次学生に対してこそ、ハード面でのサポートを充実させる必要があるからです。このように北海道大学では、ソフト・ハードの両面で先進的な取り組みを行ってきたと自負しております。

しかし心配なことがひとつあります。それは、電子ジャーナル化の進行に伴って、大学間の学習環境の差別化が拡大するのではないかということです。国立大学の間でも閲覧可能雑誌数の格差は大きいものがありますが、私立大学・短期大学間にあっては、その格差はさらに大きくなります。正確な統計は知りませんが、包括的な電子ジャーナル契約を締結している私立大学はまだ少数派なのではないでしょうか。

たしかにコンソーシアム（分担金共同負担による複数大学の電子ジャーナル契約）という制度はありますが、現状では国立大学と私立大学との連携は実現できません。また小規模私立大学や短期大学にとってはコンソーシアムへの参加が非常に困難な価格体系となっています。

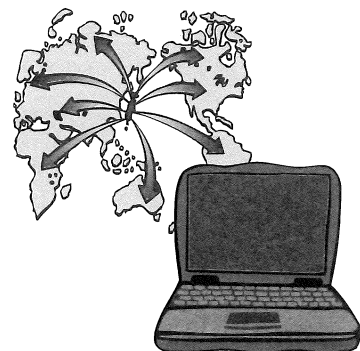
国際的研究者の育成という観点をとってみても、基幹大学の多くの教員は大学院卒業後、中小規模の大学で良い研究成果をあげて基幹大学に移籍するというキャリアを経るのですから、中小規模の大学や私立大学での研究環境を整える必要があるわけです。

また社会への人材供給という観点をとってみても、すべての大学の学生が、グローバルな情報ソースを探索してアクセスできるテクニックを身につけて就職するということは、将来の日本社会の活性化に役立つでしょう。

図書館関係者だけでなく、広く教育関係者の皆さんにもこの問題を考えていただきたいと思います。

## 参考文献

1. 『北海道大学における学術研究コンテンツの整備方策について（提言）』  
<http://www.lib.hokudai.ac.jp/item/suggestion.pdf>
2. 早瀬均, 「本学における学術研究コンテンツの整備について」, 『榆蔭』No.112, p.1-4 (2002.5)



# 北海道大学における学術文献データベースの導入状況について

附属図書館情報サービス課 参考調査掛

附属図書館では「北海道大学における学術コンテンツの整備方策について」(提言)(平成14年3月)を受けて、北海道大学で整備すべき電子ジャーナルおよび学術文献データベースの導入について検討をかさねてきました。

平成15年4月1日現在、電子ジャーナルは15,000誌を超え、学術文献データベースでは化学系研究者から要望の多かったSciFinder Scholarをはじめ、INSPEC、EonLIT等新規データベースを購入し、Web of Scienceは過去5年のバックファイルを追加購入しました。また、冊子で購入している抄録誌の一部をオンラインデータベースとしてWeb版の提供を開始しました。

昨年度までは登録制により受益者負担という利用方法で、学内の限られたユーザしか利用できなかった学術文献データベースは一部を除いてすべてインターネット版に切替え、研究者、学生が等しく利用できる環境が整備され、学内のどこからでも検索が可能になりました。

データベースによっては検索結果から大学で購入している電子ジャーナルとのリンクや学内OPACリンクが可能になり、原文へのアクセスが迅速かつ確実に情報を得ることができるようになりました。

接続はすべて附属図書館ホームページの学術文献データベースまたは電子ジャーナルから利用することができます。

→ <http://www.lib.hokudai.ac.jp/riyoannai/exdb/index.html>

## 学術文献データベース

全分野データベース	
Web of Science 1988- Journal of Citation Reports 2002	基本的な検索ができる General Search と引用文献による Cited Reference Search があります。キーワードによる主題検索や著者名検索に加え、引用関係を調べることができるのが特徴。JCR は学術雑誌の文献間の引用・被引用関係を分析したもので、その雑誌の論文が1年間に引用された総回数や Impact Factor (文献引用影響率)などを調べることができます。
Current Contents 1998-	世界の主要な学術雑誌の目次速報データベースで、最新号及び既刊の目次を通覧できるほか、論文記事をテーマ、著者名、雑誌名、所属機関住所等から検索できる。
自然科学・理工学関連データベース	
SciFinder Scholer (CAplus) 1907-	CAS が提供する化学および関連科学情報を提供する世界最大のデータベースで、キーワードによる検索結果、CAS データベースに収録されている論文、特許が検索可能。また、化学構造式による検索や反応検索ができるのが他のデータベースにない特徴。
INSPEC 1969-	IEE (英国電気工学協会) 提供の書誌情報データベースで、物理学、電気・電子工学、コンピューターサイエンス、情報技術分野に特化した情報を提供し、学術論文雑誌、会議録、技術報告書等を収録。
MathSciNet 1940-	アメリカ数学会が提供する世界の数学関係文献を包括しており、Mathematical Reviews や Current Mathematical Publications の情報を集録。

Calcium & Calcified Tissue Abstracts 1982-	骨代謝・歯の発生・筋収縮・ホルモン代謝など、生物学と医学におけるカルシウムに関わる文献の抄録を収録。
Ceramic Abstracts 1975-	材料科学系に関する抄録誌。雑誌論文、図書、特許からデータを収録。
Aquatic Sciences and Fisheries Abstracts, Pt.1 1978-	水産学に関する抄録誌で、雑誌論文のデータを収録。
生命科学関連データベース	
Biological Abstracts 1992-	生物学及び関連分野の記事抄録で、農業、生化学、生物工学、植物学、生態学、環境、微生物、神経学、薬理学、公衆衛生等の関連分野もカバー。
医学中央雑誌 1983-	国内医学文献の索引、抄録誌で医学、歯学、薬学、看護学及び関連分野の雑誌に掲載された記事情報を提供。
Agricultural Engineering Abstracts 1994-	CAB抄録誌。農業工学技術・計測に関する論文抄録を収録。
Animal Breeding Abstracts 1994-	CAB抄録誌。畜産全般に関する抄録誌。雑誌、研究報告、会議録、図書、学位論文を収録。
World Agricultural & Economics Rural Sociology Abstracts 1994-	CAB抄録誌。農業経済、社会学に関する抄録誌。雑誌、研究報告、会議録、図書を収録。
Dairy Science Abstracts 1994-	CAB抄録誌。酪農及び関係する化学・物理・免疫学・微生物学・乳製品産業マーケティングに関する抄録誌。雑誌、研究報告、会議録、図書、学位論文を収録。
人文社会科学系データベース	
EconLIT 1969-	各国の経済学に関連する文献の索引を収録しています。約400誌以上の雑誌に掲載された経済関係の記事、年間500タイトル以上の会議録や論文集に掲載された記事、書評、調査報告書等の情報を収録。
Humanities Index 1984-	500誌以上の雑誌からの記事を収録しています。考古学・美術・民俗学・言語学・音楽・哲学・宗教・歴史等、主題分野は多岐にわたり、人文科学のレファレンスとして好適。
MLA Intenational Bibliography 1963-	文学・言語学・民俗学分野の書誌索引を収録しているデータベースです。世界中で出版されている3,000以上の雑誌と書籍・研究報告書・会議録などからのデータを収録。
PsycINFO 1872-	心理学関連文献の書誌情報と抄録を幅広く収録するデータベースで、世界45ヶ国、30以上の言語で書かれた雑誌論文、学位論文、単行本、レポート等を収録。また、医学、精神医学、教育、ソーシャルワーク、法律、犯罪学、社会科学、組織行動学などの分野からの関連文献も収録。
Index to Foreign Legal Periodicals 1985-	全世界で発行される法律雑誌に掲載された記事への索引情報を提供するデータベース。アラビア語を除く、世界各国語の国際法、比較法、外国法について詳細に収録。
International Political Science Abstracts 1989-	世界の雑誌や年鑑に発表された公法・国際公法・国際関係論を含む政治学に関する論文の抄録を提供する抄録書誌データベース。

Linguistic Abstracts 1985-	言語学関連の雑誌約300誌の論文抄録を収録。
Sociology of Education Abstracts 1995-	教育についての社会学上の研究に関する論文抄録を収録。
Sociological Abstracts 1963-	社会学全般に関連する文献の索引と抄録を収録。約2,500誌以上の雑誌・書籍・会議録などからデータを収録し、分野は人類学、経済学、政治学、刑罰学、社会心理学、哲学、教育学、人口統計学、人種問題、都市研究等。
一般・レファレンス関連データベース	
Book Review Digest 1983-	書評を集めたデータベースで、毎年7,000タイトル以上が追加されます。アメリカ・カナダ・イギリスで出版された、科学・人文科学・社会科学関連の雑誌や書評誌約110誌から収録。
Books in Print 1979-	約5万の出版社から刊行されている180万点以上の書籍及び1979年以降絶版または品切れとなった書籍の書誌情報を収録。Library Journal, Kirkus, Publishers Weekly, CHOICE, Booklist等に掲載された35万件以上の書評の全文も収録。
Ulrich's International Periodicals Directory 1979-	世界中で刊行されている雑誌、年刊、不定期刊行物についてのレファレンスツールで、ISSN、出版社名、タイトルなどから検索でき、世界200ヶ国以上の8万件以上の出版社の連絡先も収録しています。また、7000紙以上のアメリカの日刊、週刊の新聞及び3000のアメリカ以外で発行されている新聞の情報を、1979年以降休刊となったタイトルとともに収録。
辞書・辞典	
Oxford English Dictionary 1989年出版第2版	11世紀半ばから現代までの英語の発生および変遷を歴史的に扱った世界で最も権威ある英語辞典のWeb版で、年4回の更新によりOED第3版(2010年刊行予定)に収録される新語や改訂された語などが取り込まれる。
Oxford Reference	オックスフォード大学出版局により出版されてきた辞書、事典類等レファレンス書約100点が、オンラインで横断検索ができる。収録分野は人文社会科学から自然科学、医学までを網羅する包括的なデータベース。
学位論文データベース	
ProQuest Digital Dissertations 1861-	世界1000校以上の大学から106万件以上の博士・修士論文の索引を収録し、1997年以降すべての論文はPDFにて最初の24ページが無料で閲覧可能。
新聞データベース	
LexisNexis Academic	世界各国の新聞・雑誌などのニュース、企業情報、判例などの法律情報、医薬ジャーナル情報を提供。
DNA for Library 1984/8-	朝日新聞記事全文データベースで、附属図書館4階参考閲覧室の端末から利用可能。
北海道新聞データベース 1988/7-	全道版に掲載された記事の他、52のエリアに分けた各地方版の記事も収録。

## 附属図書館の利用公開

北海道大学は道内唯一の総合大学として、建学以来多様な主題からなる研究・教育用図書資料を収集してきており、平成14年4月現在の全学の蔵書は340万冊を数え、学習・調査・研究を目的とした学内の教職員・学生のみならず学外の利用者に幅広く利用されています。

### 1. 地域利用者への拡大

北海道大学附属図書館は、平成14年11月から、地域に開かれた大学図書館として、利用登録手続きの簡素化のほか、これまでは研究者に限定されていた図書の貸出を本学の卒業・修了生、道内一般市民（20歳以上）の方にも拡大し、地域住民の調査・研究および生涯学習に利用していただけるようになりました。（詳細は榆蔭No.114参照）

平成14年11月から15年2月までの新規登録並びに利用状況は表1のとおりです。閲覧室では、学生に混じって市民の方が調べ物をする光景も日常化しており、このことは学生・市民利用者相互に少なからず刺激を与えているものと思われまます。

表1（平成14年11月1日～15年2月28日）

区 分	本 館	北 分 館	小 計
市民登録数	102人	26人	128人
市民貸出数	186冊	69冊	255冊
1日利用証数	2,906人	219人	3,125人

### 2. 大学図書館と他の図書館との役割分担

北海道内には国公立大学に設置された大学図書館のほか、道立・市町村立の公共図書館、研究機関等に設置される専門図書館があり、各々その設置目的に即した運営とサービスが行なわれています。今日のように、多量かつ多様な形態で図書情報が出版されるようになると、各図書館は単独に必要な情報源を不足なく収集することは、最早、不可能といわざるをえません。そこで、図書館同士が連携したサービスが重要となつてきます。

大学図書館は、共通目的を持つ大学図書館間では従前から連携した複写を含む相互利用を実施していますが、地域という枠組みで考えると、他の館種である公共図書館、専門図書館とも密な連携サービスが求められることとなります。平成13年から藤女子大学と石狩市民図書館が連携の協定を結んだことは、その典型といえます。

学生が道立・市立図書館を利用して、地方史の研究をしたり、市民が大学図書館の専門資料を使って調査をするなど、相互に特性を活かした図書館活動が拡大していくものと思われまます。

ただし、相互協力は、各図書館が自館のニーズにもとづき、必要とする図書資料を責任もって収集・整備することが前提であることを確認して置く必要があります。

Web上に各図書館が蔵書目録を公開することにより、横断的に検索することも可能となりつつあり、今後はますます、利用者にとって使い易い仮想図書館が出現するものと期待されまます。

### 3. 学術情報ポータル=大学図書館

大学図書館は、これまではその蔵書を公開することにより地域に貢献してきましたがWebを介した情報発信基盤が整備されたことを受けて、地域に限定することなく、広く内外に研究成果を発信公開することが可能となってきました。

附属図書館はこれまで、学内各部局から研究成果である紀要等の出版物を提供してもらい情報公開に備えてきましたが、大学のネットワーク上に蓄積された有用な学術情報資源を対象とした基本情報（標題、作成者、URL等）をメタデータとして登録・公開し、学内外からのアクセスに備えることも緊要な課題となっています。既に、本館・北分館をはじめ、各部局図書館が連携したNIIのメタデータ構築事業も始まり、附属図書館が学術情報ポータルとして機能する日も近いものと思われま

(情報サービス課)

## 「学位論文（新制）目録データベース」に「（旧制）」のデータが追加されました 「北海道大学学位論文目録データベース」で 新制・旧制の検索ができます！

図書館のホームページ上に掲載してきました「北海道大学学位論文（新制）目録データベース」では、新制移行後の昭和33年9月以降に北海道大学で授与された、課程博士論文、論文博士論文の目録情報を提供してきました。

この度、このデータベースに、これまで利用いただいていた冊子目録「学位論文目録（旧制）」のデータを付け加え、3月末新たに「北海道大学学位論文目録データベース」として提供を開始しました。追加されたデータは、旧制の4581論文（大正11年9月〔1922〕～昭和37年3月〔1962〕授与）で、これにより北大で授与されたすべての博士学位論文の検索、確認ができるようになりました。

データベース化にあたっては、冊子目録のデータの内、授与年月日が文部省認可年月日であった分は全て北大の授与年月日に改め、また未収録であった43論文を追加するなど若干の改訂を行いました。学位の種類、取得者名の誤記等の訂正に努めましたが、特に取得者名のヨミ等不確定な部分が多々ありますので、気が付かれた場合は是非正確な情報の提供をお願いいたします。

(連絡先 内線2564 情報システム課専門員)

#### \* 博士論文の利用について

・新制：各学部図書掛（担当掛）が所蔵、サービスに当たっています。

各学部毎のサービス詳細については、学位論文ホームページの「利用案内」をご覧ください。

・旧制：附属図書館で所蔵しています。3階の資料サービスカウンターにお申し出ください。

(なお、学位論文の著作権は取得者にあります。利用にあたっては、著作権法を遵守していただきます。)



## 平成 15 年度 本館及び北分館の開館予定

4 月	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	祝	水
本館	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	△	○
北分館	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	△	○

備考 [4月1日～7日：春季休業日]

5 月	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	木	金	祝	祝	祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
本館	○	○	△	△	△	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△
北分館	○	○	△	△	△	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△

6 月	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
本館	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○
北分館	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○

備考 6月5日～6日：北大祭のため短縮開館（北分館）

7 月	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
本館	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	△	△	○	○	△	△	○	○	○	○
北分館	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	△	△	○	○	△	△	○	○	○	○

備考 [7月29日～8月8日：全学教育部定期試験] [7月11日～9月10日：夏季休業日]

8 月	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
本館	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	△	△
北分館	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	△	△

備考 8月24日：全学停電のため臨時休館 [～8月8日：全学教育部定期試験] [～8月15日：文系研究科定期試験]

9 月	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	祝	火	水	木	金	土	日	月	祝	水	木	金	土	日	月	火
本館	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	△	○	○	○	○	△	△	○	△	△	○	○	△	△	○	○
北分館	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	△	○	○	○	○	△	△	○	△	△	○	○	△	△	○	○

備考 [9月8日～20日：文系研究科定期試験]

10 月	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
本館	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	△	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○
北分館	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	△	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○

11 月	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	土	日	祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	祝	振	火	水	木	金	土	日
本館	△	△	△	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○	○	○	○	△	△	
北分館	△	△	△	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○	○	○	○	△	△	

12 月	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	祝	水	木	金	土	日	月	火	水	
本館	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	△	△	○	○	○	×	×	×	×	×
北分館	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	△	△	○	○	○	×	×	×	×	×

備考 12月27日～1月4日：年末年始のため休館 [12月25日～1月7日：冬季休業日]

1 月	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	祝	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
本館	×	×	×	×	○	○	○	○	○	△	△	△	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△
北分館	×	×	×	×	○	○	○	○	○	△	△	△	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△

備考 12月28日～1月4日：年末年始のため休館, 1月17日～18日：センター試験のため臨時休館

2 月	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	祝	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
本館	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	△	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△
北分館	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	△	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△

3 月	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	祝	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
本館	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○
北分館	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○

\*開館時間=○：9時～22時, ○：9時～17時, △：9時半～17時, ×：休館

# OPAC & 情報Web サービスがリニューアル!

新図書館情報システムの開始に伴い、北大OPAC（蔵書検索システム）、及び図書館情報WEBサービスが3月3日（月）から新しくなりました。新規追加機能は以下の点です。

## ～北大OPACの新機能～

- 北海道大学の蔵書とNACSIS-Webcat（全国蔵書）が同一画面で検索できます。  
（NACSIS Webcat は、国立情報学研究所が提供している全国の大学図書館などの蔵書目録データベースです）
- 電子ジャーナル（北大購読分）の検索ができます。
- 検索結果一覧をメールで送信することができます。
- 中国語、韓国・朝鮮語を文字化けなく表示させることができる、多言語対応版OPACの提供を開始します。

## Online Catalog

Hokkaido University Library

English Version | 新着図書案内 | 雑誌最新号案内 | 電子ジャーナル | 学術雑誌目次速報データベース | 北方資料データベース |

検索対象を限定

「図書」「雑誌」

「電子ジャーナル」

「AV資料」

学内OPAC     NACSIS Webcat

検索対象 全て    和洋 ▼    検索範囲 (全学部) ▼

キーワード検索

表示順 図書 ▼ 書名    一度に表示する件数 20 ▼

1回めから検索しなおす | →検索条件を詳細に指定する | →検索語の入れかた | 資料番号でも検索できます。2回め以降の検索のためにメモしておくと便利です。

北大の蔵書と全国蔵書 (NACSIS-Webcat) の検索ができます。

\*両方をチェックした場合、北大に蔵書があれば NACSIS-Webcat は検索されません。

検索結果の表示順を指定。

- ・ 図書から/雑誌から
- ・ ソート順：書名・著者名、出版年・出版社

### 表示例1) 検索結果の一覧表示：電子ジャーナル

学内で 24 件 見つかりました [ 図書 0 件 : 雑誌 24 件 ] → 書誌と所蔵を一緒に表示する [ [詳細](#) ]    [この画面の見方](#)

Page : 1 2    [結果をメールで送る](#)

1.	[雑誌] RPLレビュー = Regional policy review / 日本政策投資銀行地域政策研究センター [電子ジャーナル] <37000013>
2.	[雑誌] Slavic Research Center news = スラブ研究センターニュース - [電子ジャーナル] <37000014>
3.	[雑誌] Works / ワークス研究所 [編集] - [電子ジャーナル] <37000015>
4.	[雑誌] あいみつく / 国際医学情報センター - [電子ジャーナル] <37000016>
5.	[雑誌] Bioorganic and medicinal chemistry - [電子ジャーナル] <37001586>
6.	[雑誌] Biometrika - [電子ジャーナル] <37001584>
7.	[雑誌] Biomolecular Engineering - [電子ジャーナル] <37001585>
8.	[雑誌] Faulkner journal - [電子ジャーナル] <37004641>

検索結果の一覧をメールで送信できます。

電子ジャーナルの所蔵状況を検索することができます。



表示例2) 検索結果の詳細表示：多言語対応版

zhong guo de qi ji : fa zhan zhan lue yu jing ji gai ge  
**中国的奇迹：发展战略与经济改革 / 林毅夫, 蔡昉, 李周著**  
 (当代经济学系列丛书 / 陈昕主编; 1. 当代经济学文库)

出版者 上海: 上海三联书店; 上海人民出版社  
 出版年 1994  
 大きさ 2,15.4,5,286p; 20cm  
 著者標目 林 毅夫(1952-) <リン, キフ>  
 蔡 昉 <サイ, ホウ>  
 李 周 <リ, シュウ>  
 件 名 NDLSH中国 -- 経済 -- 歴史 -- 1949 --  
 NDLSH中国(1949 -- 中華人民共和国) -- 経済  
 NDLSH中国(1949 -- 中華人民共和国) -- 経済政策  
 コード類 書誌ID=21052484 NCID=BN15998191

[ 前画面 | (はじめから検索) | おおす | この画面の見方 ]

巻次	所在場所	請求記号	資料番号	状態	コメント	刷年
v. 1	本館情報システム課	338.9/LIN	8021557840	目録中		1994

多言語対応版OPACでは……

- ・ 中国語, 韓国・朝鮮語を表示できます。
- ・ 中国語簡体字・繁体字, ハングル文字, ピンインによる検索が可能です。

(お問合せ先：附属図書館参考調査掛 内線：2973, 4107 E-Mail:ref@lib.hokudai.ac.jp)

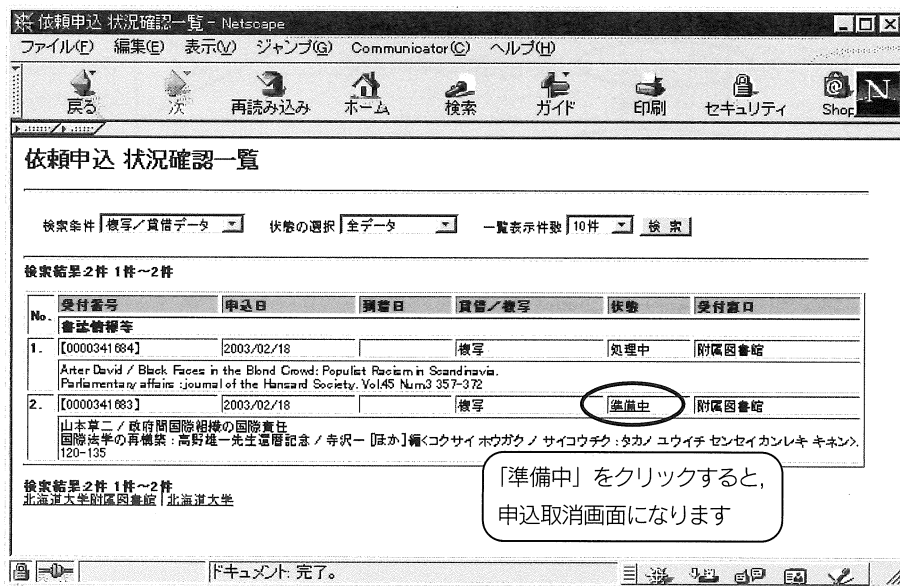
～北大図書館情報WEBサービスの新機能～

[学外への文献複写申込]

○ 学外依頼文献の申込取消ができます。

〈操作例〉

- ① 図書館情報WEBサービスの [学外への文献複写/図書館借用申込の進捗状況照会] を選択します
- ② 状態が「準備中」の場合、WEBから申込取消ができます



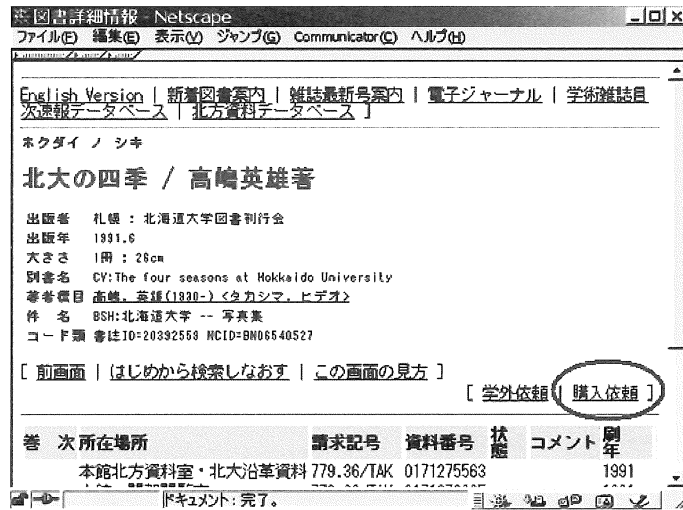
(お問合せ先：附属図書館相互利用掛 内線：4095, 2974 E-Mail:sogo@lib.hokudai.ac.jp)

〔図書購入依頼（教職員用）〕

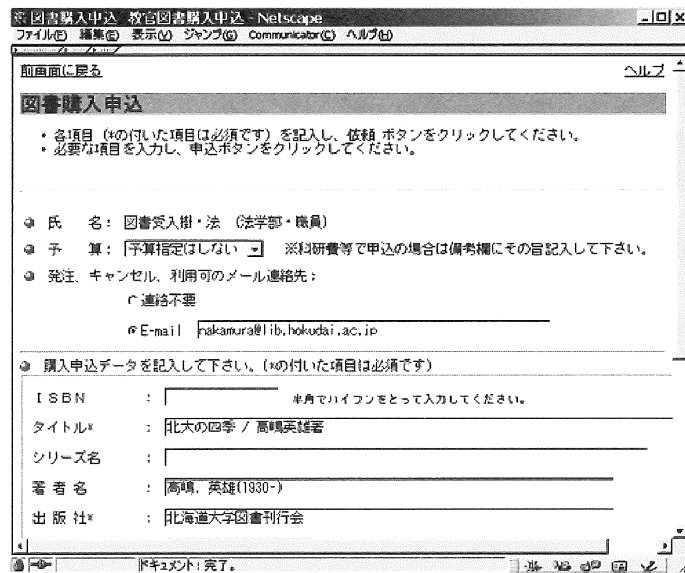
- 蔵書検索等の検索結果を流用して図書購入依頼ができます。

〈操作例〉

- ① 蔵書検索後，〔購入依頼〕 をクリックします。



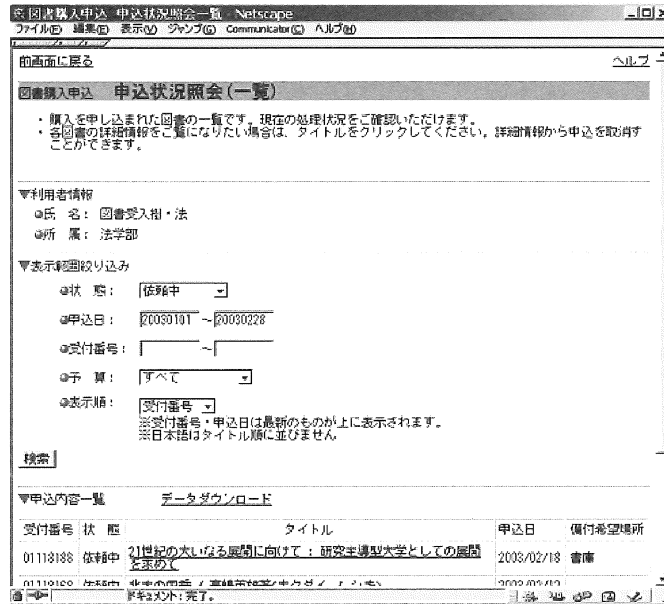
- ② 状態が「準備中」の場合，WEBから申込取消ができます



（お問合せ先：附属図書館相互利用掛 内線：4095, 2974 E-Mail:sogo@lib.hokudai.ac.jp）

[図書購入依頼（教職員用）の依頼状況照会]

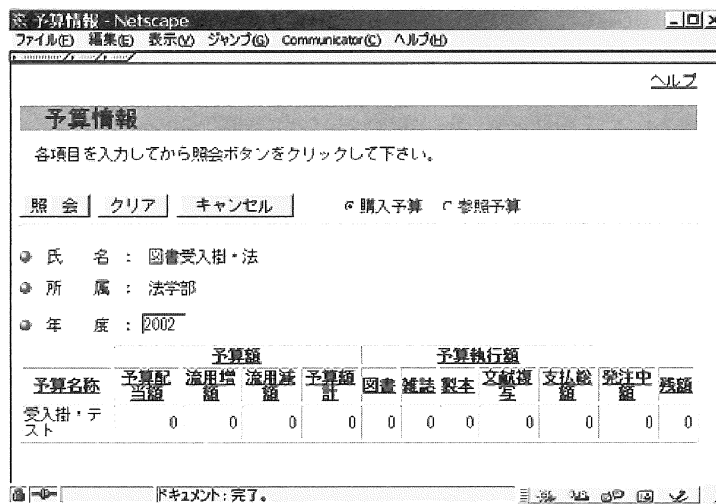
- 表示順の指定や抽出条件の追加により、照会時の操作性が向上しました。  
また、照会結果を簡単にパソコンへダウンロードできます。



(お問合せ先：附属図書館図書受入掛 内線：3955, 4097 E-Mail:ukeire@lib.hokudai.ac.jp)

[予算情報照会]

- 表示項目を大幅に追加したことにより、詳細な予算情報を照会できます。



(お問合せ先：附属図書館図書受入掛 内線：3955, 4097 E-Mail:ukeire@lib.hokudai.ac.jp)

## 北分館でエル・ネット「オープンカレッジ」を 視聴できるようになりました

エル・ネットとは、衛星通信を活用して、教育・文化・スポーツ・科学技術に関する情報を直接全国に発信する文部科学省の教育情報衛星通信ネットワークで、「オープンカレッジ」では全国の国公立大学の公開講座を放映しています。

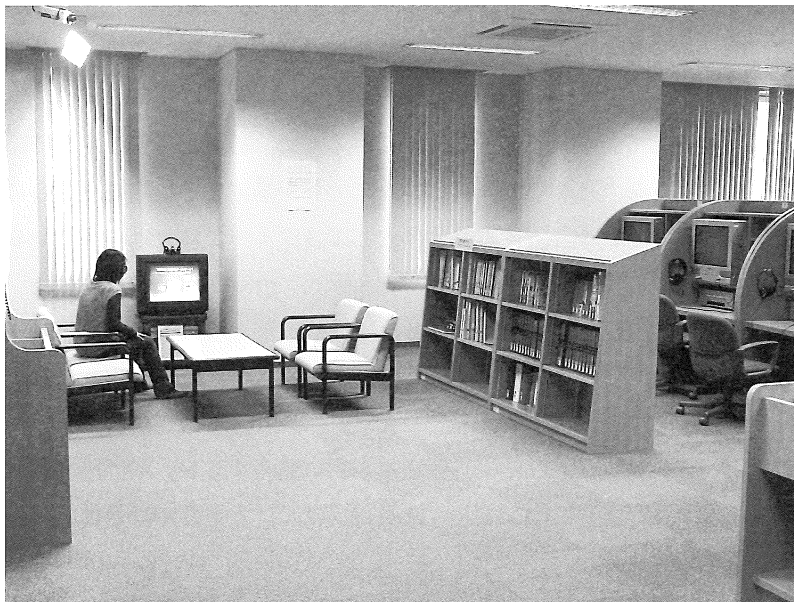
この度、北分館2階のマルチメディア公開利用室内にエル・ネット「オープンカレッジ」を視聴できるコーナーを設けました。どなたでもご自由に視聴することができます。どうぞご利用下さい。

なお、詳しい利用方法については、下記URLをご参照ください。

<http://www.lib.hokudai.ac.jp/bunkan/>

エル・ネット「オープンカレッジ」についての詳しい情報及び、放映スケジュールについては、下記URL(エル・ネット「オープンカレッジ」ホームページ)をご参照下さい。

<http://www.opencol.gr.jp/>



## 平成14年度第2回北海道大学附属図書館講演会が 開催されました

本年度第2回目の北海道大学附属図書館講演会が平成15年2月20日(木)北海道大学学術交流会館において、道内国公私立大学等の図書館職員を対象として、開催されました。

筑波大学図書館情報学系助教授谷口祥一氏による「FRBR(書誌レコードの機能要件)と目録への概念モデリングアプローチ」及び国立情報学研究所開発・事業部次長大埜浩一氏による「学術ポータルの整備について」の講演があり、道内の国公私立大学、高等専門学校及び本学図書館職員から約50名の参加がありました。

### 平成14年度北海道大学附属図書館講演会記録 「FRBR(書誌レコードの機能要件)と 目録への概念モデリングアプローチ」(要約)

筑波大学図書館情報学系助教授 谷口 祥一

現在の目録が抱える各種の問題群を整理し適切な対応を図るために、目録の設計(および問題解決)の全体をいくつかの段階に分けて捉える考え方が広く採用されている。複数の段階化が可能であるが、大きくは概念設計とそれ以降のレコード/データ項目設計等に分けることができる。そのうち特に前者の段階に関わる議論が近年盛んに行われている。概念設計で構築されるモデルの代表例がFRBRと呼ばれるものである。これはIFLA(国際図書館連盟)が組織した研究グループによる成果であり、1997年に最終報告がなされている。目録の基底に関わる議論であるため、各種の問題を考える上でも、その理解は有用であるといえよう。

FRBRはモデル記述言語としてE-Rモデルを採用しているため、目録が対象とする書誌的な事象(多様な情報メディアが形成する世界)を、必要な実体群、個々の実体を構成する属性群、さらには実体間の関連群を規定することでモデルを示している。実体群は全体として3グループに分けられているが、特に書誌的な対象物を直接表す第1グループの実体群(work, expression, manifestation, item)がその定義や機能を含めて問題となる。加えて、FRBRはこれら設定した属性群・関連群の妥当性を検証するため、別途、利用者タスクを4種定義し、個々の属性・関連に対していずれのタスク達成に有用であるか重要度評価を試みている。

同モデルは現行の目録(書誌レコード)作成処理に基本的に整合するが、現行処理方式との間で一部相違する部分を含んでいる。例えば、実体expressionは現行では明確な扱いがなされておらず、現在、可能な処理方式の検討などが行われている。

FRBRは完成度が高いモデルであるが、唯一のモデルではない。特定の資料種別に特化したモデルがFRBRの展開形として、場合によっては必要となろう。同時に、FRBRと同レベルのモデリングにおいて、それとは異なるモデルの提案や検討も併せて必要とされよう。筆者自身は、manifestationに換えて、expression(テキストレベル実体)を基盤としたモデルの提案および検討を行っている。



# 平成14年度北海道大学附属図書館講演会記録 学術ポータル整備について (要約) —日米大学図書館の現状とJuNii & GeNii—

国立情報学研究所開発・事業部次長 大埜 浩一

## 1. 文部科学省：学術情報発信に向けた大学図書館機能の改善連絡会

2002年5月から、この連絡会で大学からの学術情報発信活動と電子図書館機能を連動させた協議が行われてきた。文部科学省が電子図書館予算を先導的に措置した15国立大学での成果と今後の計画（図書館情報大学の成果は、筑波大学の中に含む）をレビューの上まとめて他大学への参考とするもので、文部科学省情報課、15大学と国立情報学研究所（オブザーバ）とで構成。2003年1月14日時点の中間報告を基に、主な内容を紹介した。（最終報告は4月に公表見込み。15大学以外での成果も織り込み予定。）



## 2. ARL : Scholars Portal Project (SPP) <http://www.arl.org/access/scholarsportal>

北米の研究図書館協会 Association of Research Libraries 加盟7大学図書館が2002年5月から3年計画で開始している学術研究ポータルの形成実験SPPと、直前のScholars Portal Working Groupの活動を紹介した。SPPが目指すポータルは、利用者を単一のアクセスポイントから最適な情報資源 appropriate copyに誘導するとともに、大学における教育と学術研究を円滑に実現する各種のツール・場を提供することにある。

## 3. NII 大学情報メタデータポータルJuNiiとNII学術コンテンツ・ポータルGeNii

国立情報学研究所が2002年4月からサービスを開始している学術コンテンツ・ポータルGeNii <http://ge.nii.ac.jp/outline-j.html>の現状と今後の構想を説明した。その中で引用文献情報ナビゲータCiNiiと連想検索機能を実装した図書情報ナビゲータWebcat Plusならびにインターネット上で大学が発信している学術情報のメタデータポータルJuNiiの構築状況（2月現在で193機関参加）及び3月中旬公開予定の検索画面を紹介した。

# カリフォルニア大学バークレイ校・ワシントン大学図書館を訪問して

## — アメリカ大学図書館の情報リテラシー教育支援サービス —

附属図書館情報サービス課 参考調査掛 小林 真木子

### 1. はじめに

学術情報としての電子的資料の普及に伴い、大学図書館でも電子的情報資料の有効活用を含めた情報リテラシー（情報活用能力）教育への支援が求められている。

北大附属図書館では、この情報リテラシー教育支援に関連して、平成9年から教官・学生を対象とした「雑誌論文の探し方」「新聞の探し方」等、資料調査のためのガイダンスやセミナーを企画・実施している。また、平成13年度からは全学共通科目一般教育演習の講義の中で『情報探索入門』と題した情報探索の基本についての90分間の講義と演習を実施している。このような大学教育との連携によるサービスは、導入されて間もないこともあり、その内容や実施形態など未だ試行錯誤の面も多い。

そのような折、北海道大学国際交流事業基金の派遣事業として10月1日より10日間の日程でアメリカ合衆国西部の図書館を訪問する機会を得、図書館における情報リテラシー支援サービスが日本に先行して実施されているアメリカの大学図書館の様子を見聞することができた。

### 2. 情報リテラシー支援サービス

本学を含め近年日本の大学図書館では情報リテラシーに関わる多様なサービスが試みられているが、米国でも早くから図書館利用者教育のなかで情報リテラシー支援サービスが提供されてきた。アメリカ図書館協会(ALA)では、情報リテラシーを「情報が必要なときそれを認識し、必要な情報を効果的に探し出し、評価し、利用する能力」と定義している(ALA情報リテラシー委員会最終報告書1989年)。

ALA大学研究図書館協会(ACRL)ではこの定義に基づき「高等教育のための情報リテラシー能力基準」(ALA大学研究図書館協会 2000年)、「情報リテラシー教育のための目標：大学図書館員のための文案」(同2001年)を作成し、大学図書館がサービスを実施する際の具体的な目標を示している。

今回の訪問はアメリカ西部の大学図書館で現在これらの基準をもとにどのような支援サービスが展開されているのかを知るよい機会となった。

### 3. カリフォルニア大学バークレイ校

1873年創立のカリフォルニア大学バークレイ校は、キャンパス中心部に中央図書館であるDoe Library、学習図書館のMoffitt Library、貴重図書館のBancroft Libraryを持つほか、20の専門図書館を有している。

#### Teaching Library

“Teaching Library”は1993年に設置された情報リテラシー支援サービスを専門に担当する部門である。この部門の担当者の方にサ



カリフォルニア大学バークレイ校 Doe Library

ービスの実施内容についてお話を伺った。

“Teaching Library”は、学習図書館Moffitt Libraryにサービス業務の一部門として置かれている。Webサイト“Teaching Library”から“Instruction & Tour”と呼ばれる各種講習会の案内、分野別にアクセスできるResearch Guideなど、情報リテラシーに関する様々な情報を発信している。

10月の訪問時は新学期を迎えた時期でもあり、図書館資料の検索入門、LexisNexis等のデータベース利用セミナーなど、図書館の企画によるInstructionが案内されていた。スタッフのお話によると、最近の主要なInstructionは“Course-Integrated Library Instruction”と呼ばれるサービスであるということだった。これは教員の要望に応じて企画されるいわゆるオーダーメイドのInstructionで、希望する教員は



Moffitt Library Information gateway

Webフォームに希望の日時・授業のテーマやInstructionの目標、演習を要するデータベースなど、内容を具体的に記入し、希望日の3週間以上前に申込みをするようになっている。教員と担当職員がこのフォームをもとに実施内容の詳細について検討し、Instructionが実施される。こういった利用者の要望に応じたInstructionはMoffitt Library内のリテラシールームで開催されるほか、キャンパス各所に図書館職員が出向いて実施されることも多いとのことだった。“Teaching Library”のInstructionは主に学部学生を対象に提供しているが、研究者・大学院生が要請する専門分野の情報収集など、内容に応じて適宜キャンパス内の各専門図書館でも行われており、情報リテラシー支援が大学図書館全体のサービスとして定着している様子が窺われた。また、講義を担当する教員のための図書館サービスとして、効果的な図書館資料の利用に関するアドバイスなど、学生へのリテラシー教育に必要な情報が教員対象のWebサイトなどで提供されている。

ところで図書館の訪問に先立って、簡単なキャンパスツアーに参加してみた。これは大学構成員や観光客を対象に大学が実施しているツアーで、案内してくれたのは社会学を勉強しているという元気な女子学生だったが、ツアー中、彼女に図書館を利用しているか、ライブラリアンから図書館の使い方を案内してもらったことがあるか聞いてみると、もちろん新生の時に授業でInstructionを受けたとのこと。私がこれから図書館を利用する予定と思ったのか、加えて「それにレポートやテストの前には、必要な資料を探すためのアドバイスを受けることができるから何でもライブラリアンに聞けば大丈夫！」と親切に説明してくれた。彼女が図書館の蔵書の豊かさや設備ではなく、まず図書館員にアドバイスを請うことを薦めてくれたのが印象的だった。

#### 4. ワシントン大学

ワシントン大学は、1861年に創立された州立大学で、シアトルキャンパスには中央図書館（Suzzallo and Allen Library）の他、学習図書館のOdegaard Undergraduate Libraryと16の専門図書館がある。中央図書館で情報リテラシー部門（Information Literacy）の担当者の方にお話を伺った。

ワシントン大学でも図書館企画による講習会の参加者は減る傾向にある一方、“Course-Related Instruction”と称した教員の要望に応じて企画されるクラス単位のInstructionの開催数は増加し



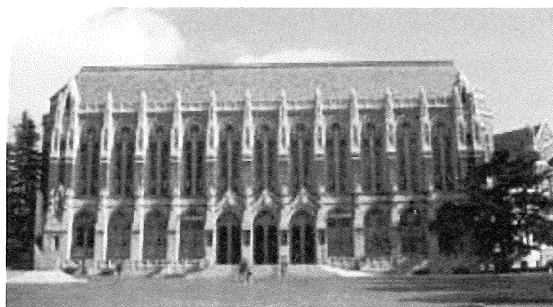
ているとのこと。WebからのInstruction申し込みフォームも提供されており、情報リテラシーに関しては教員との協力体制・授業との連携がサービス形態の基本となっている。

数多くのセミナーをこなしている専任職員の方に業務上の課題を尋ねたところ、講義形式で文献の案内を行うInstructionでは分かりやすい表現や説明の方法など、プレゼンテーションの方法について頭を悩ませており、Instructionをどのように企画し、実施するかはリテラシー担当職員の課題であるということだった。情報リテラシーに関する業務では、資料に関する知識に加えプレゼンテーションの技術・能力が要求されるということは私自身も日々の業務の中で痛感している。ワシントン大学ではこの点に関し、図書館職員を対象にワーキンググループによる教授法・コミュニケーション法のワークショップが開催され、必要な技術の研鑽の機会がもたれているとのことであった。

ワシントン大学では、情報リテラシーサービスに関連してUWill (University of Washington Information Literacy Learning) と呼ばれる部門があり、主にWebを活用したリテラシー教育のサービスを提供している。UWillの置かれている学部学生を対象とした学習図書館Odegaard Undergraduate Library and Computing Commonsは、3階フロア全体が370台のPCが設置されたメディアセンターとなっている。

UWillの代表的なサービスにはResearch 101と呼ばれる情報リテラシー教育のためのOnline tutorialがある。このチュートリアルでは、基本的な資料の解説から、入手した情報の評価までの6段階のレベルが用意されており、各レベルの最後に提示される質問に回答することによって自らの理解度を確認することができ、Webの機能を生かしてインタラクティブに情報リテラシーを身につけることができる。

また、UWillでは図書館資料や探索方法を紹介した各種のテンプレートを提供している。これをクラスにあわせてカスタマイズし、主題を限定した資料案内やチュートリアルとして各クラスのWebサイト上で提供できるようになっている。UWillのサービスは、授業の目的に応じてカスタマイズできる、都合のよい時間に利用できるなど、教員やクラスのニーズに対応したサービスという視点からWebを活用した様々な試みが行われているようだった。



ワシントン大学 Suzzallo Library



Odegaard Undergraduate Library and Computing Commons

## 5. おわりに

カリフォルニア大学バークレイ校、ワシントン大学各図書館の情報リテラシー教育支援サービスを簡単にご紹介したが、本学の状況と異なる点として、情報リテラシーが独立したサービス部門として存在しているということがまず挙げられる。この専門部門が、他のサービス部門との連携を図りつつ「教養課程(学部学生)対象のリテラシー教育の充実」「講義と連携したサービスの実施」「Web機能を活用した情報提供」「教員・スタッフへの情報リテラシーに関わる支援サービス」など多様なサービ

スを展開し、図書館の大学教育支援サービスの中心的役割を果たしている。

本学図書館では主に附属図書館参考調査掛がレファレンス等の業務と併せて、情報リテラシー支援サービスを担当している。教官の要望により授業補助としてゼミ講義内に実施している文献探索セミナーの開催数は、平成13年度12回に対し平成14年度25回、全学共通科目一般教育演習『情報探索入門』開催数は、平成13年度39回に対し平成14年度47回と、年を追う毎に実施数が増加している。また、受講者のアンケートでは、「これまで文献の探し方がよくわからなかった」「もっと早い時期にこのようなセミナーを開催してほしい」等のコメントがみられ、大学での学習に必要な能力としての情報リテラシーの要求は高まっている。そのような利用者の具体的なニーズに対応したサービス、質の高い支援サービスを実施するためには、情報リテラシー教育支援サービスの専門部門の設置の他、図書館組織としての取り組み、スタッフの養成などが必要不可欠であることを改めて認識した。

また、今回訪れたどの図書館でも学生が気軽に図書館員へあれこれと話しかけている姿を見かけ、人的サービスの充実も特に印象に残ったことの一つである。情報リテラシー支援とは本稿で紹介したような新しい形態の業務だけではなく、カウンターでの資料案内、図書館サービス案内といった従来の業務のなかで日常的に提供されるべきものであるのだろう。

最後になりましたが、今回の訪問の機会を与えてくださった関係者の皆様、様々なアドバイスをいただき、新学期の多忙な時期にもかかわらず送り出してくださいました附属図書館の皆様に心よりお礼申し上げます。

#### 参照URL

- ・ The Association of College and Research Libraries(ACRL), Standards & Guidelines  
(<http://www.ala.org/acrl/guides/index.html>)
- ・ University of California Berkeley Library The Teaching Library  
(<http://www.lib.berkeley.edu/TeachingLib/>)
- ・ University of Washington Library UWill pilot project  
(<http://www.lib.washington.edu/uwill/pilot.html>)

## 教官著作寄贈図書

2002.11.1 - 2003.2.28

### [本 館]

(法学部)

稗貫 俊文 ほか 著	独占禁止手続法	有斐閣	2002
寺谷 広司 ほか 著	資料で読み解く国際法 (第2版) 上	東信堂	2002
瀬川 信久 ほか 著	民法判例集：債権各論 (第2版)	有斐閣	2002
奥田 安弘, 山口 二郎 著	グローバル化する戦後補償裁判	信山社出版	2002
奥田 安弘 著	数字でみる子どもの国籍と在留資格	明石書店	2002
吉田 邦彦 著	契約法・医事法の関係的展開	有斐閣	2003

(医学部)

眞野 行生 編著	ケアスタッフと患者・家族のためのパーキンソン病	医歯薬出版	2002
----------	-------------------------	-------	------

### [分 館]

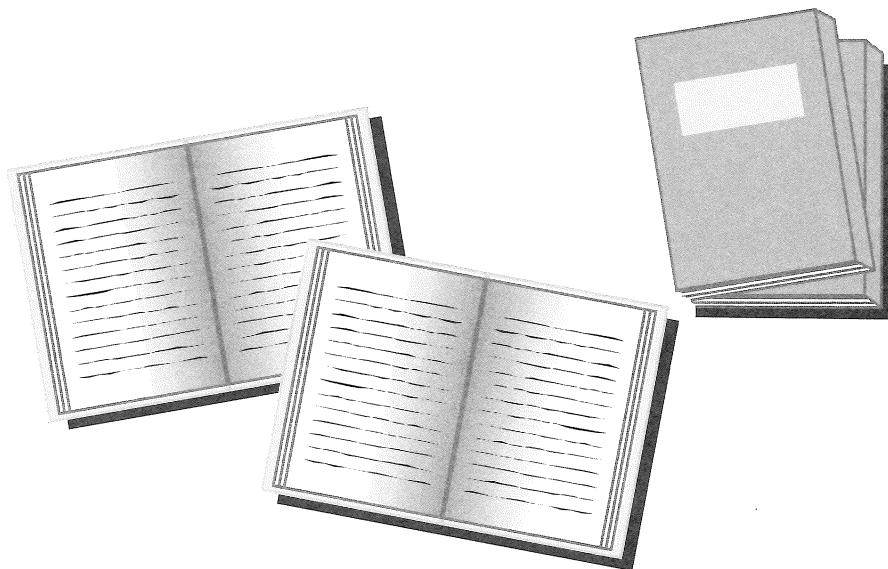
(文学部)

河内 祥輔 著	保元の乱・平治の乱	吉川弘文館	2002
---------	-----------	-------	------

(言語文化部)

高橋 吉文 訳	図説服装の歴史 (上下巻)	図書刊行会	2001
---------	---------------	-------	------

ご恵贈誠にありがとうございました。図書館では本学教官が執筆した図書資料を収集しています、新たに本を出版される際には、ご恵贈くださいますようご協力お願い致します。



## 会議 (14.11.1 ~ 15.2.28)

### 【学 内】

#### ◎図書館委員会

○第191回 〈12月12日(木)〉

- 議 題
- 1 附属図書館増築・改修検討小委員会中間報告について
  - 2 平成14年度北海道大学附属図書館自己点検評価小委員会中間報告について
  - 3 学術文献データベースの見直しについて
  - 4 平成16年度歳出概算要求事項及び平成15年度営繕要求事項について
  - 5 北海道大学附属図書館における新聞の保存基準について
  - 6 北海道大学附属図書館における学外者の利用に関する内規について

- 報告事項
- 1 外国語新聞の廃棄について
  - 2 平成14年度学術研究コンテンツの整備状況について
  - 3 海外アドバイザーによる評価と提言について
  - 4 文学研究科図書業務統合計画委員会について
  - 5 スラブ研究センター図書業務統合計画委員会について
  - 6 国立大学附属図書館を巡る状況について

#### ◎自己点検評価小委員会

○第2回 〈12月6日(金)〉

#### ◎附属図書館増築・改修検討小委員会

○第3回 〈11月15日(金)〉, 第4回 〈11月29日(金)〉

### 【学 外】

◎平成14年度国立大学附属図書館事務部長会議 〈1月23日(木)〉(岐阜大学)

◎北海道地区国立大学附属図書館事務(部・課)長会議 〈11月25日(月)〉(北海道大学)

## 人事往来

### 【平成15年1月1日付け異動】

#### 〔転 入〕

矢野 誠 附属図書館情報管理課長(東北大学附属図書館情報サービス課長)

#### 〔転 出〕

早瀬 均 東京学芸大学附属図書館事務部長(附属図書館情報管理課長)

---

北海道大学附属図書館報「榆蔭」(ゆいん) 第115号 平成15年3月31日発行

〈編集〉 「榆蔭」編集委員会

〈発行〉 北海道大学附属図書館 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目  
TEL : 011-706-2967 FAX : 011-747-2855  
ホームページ <http://www.lib.hokudai.ac.jp>